



しののめだより

令和5年度第1号
令和5年4月7日発行
富士東高校情報交換ひろば

令和5年度のスタートです。今年度もよろしくお願ひいたします。生徒や教職員の様子を随時レポートし、ホームページ等で発信していきます。今年度第1号のテーマは「**リニューアル**」です。

リニューアル① スクール・ポリシー運用開始

スクール・ポリシーとは？

各学校の入学から卒業までの教育活動の指針のことです。スクール・ポリシーを明確に示すことで、高校生の学習意欲を喚起し、その可能性や能力を最大限に伸長するための各学校の特色化・魅力化を図ることを目指すもので、静岡県では、令和5年3月末までに全ての公立高等学校がこれを公表しました。富士東高校では、昨年7月末から検討を開始し、教職員による案の作成、生徒・保護者の皆様からの意見集約を経て、別紙のとおり策定しました。

スクール・ポリシー（3つの方針）

卒業までにこのような生徒を育てます
(**グラデュエーション・ポリシー**)

このような学びを実現します
(**カリキュラム・ポリシー**)

このような生徒の入学を求めています
(**アドミッション・ポリシー**)

このうち、カリキュラム・ポリシーは…

- 「しののめ探究」を核とした全ての教科・科目において、バランスの取れた質の高い学力を育む教育課程を編成・実施する。
※学力…知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等
- 全ての教育活動において**探究的・課題解決的なプロセス**を重視し、自ら学ぶ姿勢を養う。
※教育活動…しののめ探究、各教科の授業、特別活動、部活動の全て
※プロセス…「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」
=目標に基づいた「**問い**」があり、その解決に向けて実践し、振り返って次の目標につなげる。
- 他者との対話・交流を大切にした取組を通して、協動的な学びの土壌づくりを推進する。
※様々な「他者」を想定（特別支援学校との交流も含む）

探究的・課題解決的なプロセスって？



探究的・課題解決的なプロセスという、この図の螺旋上に描かれた4段階が一般的です。しののめ探究では、これら全てを生徒が行います。生徒自らが「主体的に」考えて設定した「答えのない問い」や「答えの出し方が無数にあるような問い」に取り組むことによって、社会に出たときに求められる「課題設定・解決能力」や「情報収集力」「分析力」「表現力」などを鍛えます。探究学習に取り組むことで、教科の学力向上も期待できます。

また、この学び方は各教科の学びにも応用できます。異なるのは、4段階のプロセス全てを生徒のみで担うわけではないという点です。また、その過程では、教師の説明などによる知識のinputの場面もあるでしょう。部分的な受動の場面があっても、学習のまとまりの最後には、生徒自身によって成果（問いの解決）のoutputが行われます。そうして、学習内容を踏まえた新たな疑問が生まれ、次の学びにつなげていくことを大切にしましょう。

リニューアル② 敷地内に富士特別支援学校富士東分校開校

2年間の準備期間を経て、いよいよ4月11日に開校します。これは、県内特別支援学校の施設狭小化と通学負担の解消を目的とした県の整備計画に基づくものです。静岡県では、国のインクルーシブ教育システムに基づき、障害の有無に関わらず居住地区でともに支え合い育つという「共生・共育」の理念のもと、県内公立高等学校内への特別支援学校分校設置が進められてきました。富士特別支援学校富士東分校は、その11校目です。

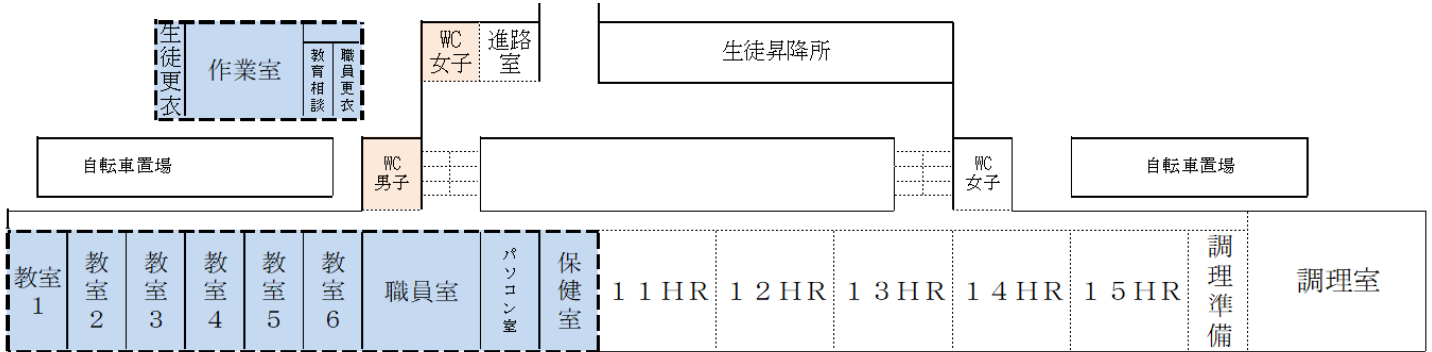
どんな学校？

【設置課程】高等部 【障害種別】知的障害 【募集定員】2学級18人

【通学区】富士市東部地区（吉原第一、第二、第三、吉原東、元吉原、須津、大淵、田子浦、岳陽、吉原北）

施設はどう変わった？

点線内が分校エリア。網掛けトイレは高校生・分校生共用です。また、分校設置工事に伴い、教室棟のすべてのトイレが洋式化・乾式化されました。その他、特別教室や図書室、体育館、グラウンド、駐輪場も共用します。



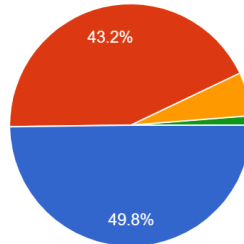
どうする？「共生・共育」

学校行事等における交流（初年度は、対面式、防災訓練、東雲祭、芸術鑑賞会など）を計画しています。各クラスから新たに選出される「共生・共育委員」が中心となり、アイデアを出し合いながら「共生・共育」の在り方を模索していきましょう！相互に理解を深め、「ともに育つ」関係でありたいですね。

Welcome！分校生

去る3月9日、富士特別支援学校の先生を講師にお招きして「共生・共育集会」を実施し、特別支援教育に対する理解を深めるとともに、「共生・共育」の実現に向けた見通しをもつための時間としました。事後に行ったアンケート（富士特別支援学校実施）からは、東高生の優しさや真面目さが垣間見える記述がいくつも見られました。御提供いただいたアンケート結果から、ここにその一部を御紹介します。

「共生・共育集会」について

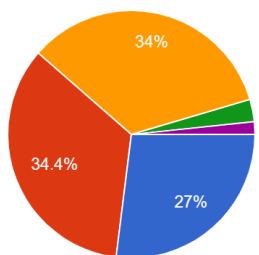


- 分校の生徒も自分たちと同じ高校生だという話。当たり前なことだけど変な先入観とか偏見を持たないことが大切だと思いました。
- なんら変わりのない同じ高校生という言葉。少し身構えてしまっていたので、この言葉を聞いて安心しました。
- 清掃や製作などを本格的に行っていると聞き、とても驚いたし、素直にすごいと思いました。
- もう社会で生きていく方法を身につけることをしていた。その生徒さんたちが、自分より大人に見えた。

- 誰にでも平等に権利が与えられ共に生きていけるのは自分からしてもとても心地が良い話であり、嬉しいです。
- 私は大淵第一小の出身で、度々富士特別支援学校の生徒さんと交流をしたことがあったので、変わらず優しく接して行けたらいいなと思います。
- 分校ができることは東高にとっていいことだと思います。制服が工夫されていてかわいいなと思いました。
- 特別支援学校と聞くと区別してしまいやすいけど同じ仲間として歩いていくという意識が湧きました。
- 富士東分校に行くことを楽しみにしてくれているとできて嬉しいです。

分校の開校は…

- 楽しみである
- 少し楽しみである
- どちらでもない
- あまり楽しみではない
- 楽しみではない



- 誰にとっても、一緒に過ごしていくことは良い機会になると思う。
- 我々と違う経験をしている仲間ができるのは話すことが沢山出来そうと楽しみです。そこから何か学べそうということも楽しみです。
- 自分の勉強や生活している学校に新1年生が入学してくることに特別な理由もなく可愛い後輩ができることを楽しみにしています。東高の1年生も分校の1年生も私にとって可愛い存在であることには変わらないです。
- どう接すればいいかわからない。安易に話していて、分校の生徒に知らないうちに傷つく発言をしてしまっは申し訳ない。
- 何か行事等に変化が起きるのか初めてあまりわからないところもある。

期待していること

- 東雲祭で交流したい
- 一緒に何か制作してみたい
- 授業以外の時間で、掃除、休み時間とかに触れたいし、運動会とか大きな競技など一緒に出来る種目があればやってみたいと思います。分校の先生から特別支援の授業を聞いてみたいです。

疑問や不安

- 東高生側の分校生への理解があまりなく、発言等でトラブルが起きてしまうのではないかと不安
- 共生になるからと言ってあまり関係わりがないんじゃないかという不安
- 私たちに何かできることがあるから今は新1年生個々の特性は分からないから何も言えませんが、これから配慮することは当たり前だと思っています。だから一緒に考えるので知らせてください。

その他感想

- 通ってくる子たちはどこか違うところがあると考えていました。確かに、異なっているところがあるのかもしれませんが、でもそれも一つの個性であるからこそ、お話を聞いた「同じ高校生である」ということは忘れてはいけないなと思いました。とても心に残っています。